スタート直後の雄姿！

SAKURA

No.26
はまぐち

快走！　ベストを尽くしたみんな

★すばらしいなあ～！

12 月 16 日(木)13:40、校内駅伝大会の号砲！
女子８チーム、男子８チームが一斉にスタートしました。
開会式で話したことはただ一つ。**「全員がベストを尽くすこと」でした。一人一人が自己ベストを尽くそうとタスキをつなぐことで、自然と結果はついてきます。順位よりも大切なことは、クラスの仲間が互いに応援し合って結束すること**です。
合唱コンクールに続いて、また伊勢宮のみんなは「全員がベストを尽くすこと」を達成してくれました。決して力を抜かず、負けん気を出して前へ前へと進む姿は、本当にかっこよかったです。
体育の授業での練習の姿もすばらしかったです。
「ピカイチ☆」の仲間だとまた実感しました。

★やっぱりすごい　3年生の「力」！

今回も感心したのは**３年生の「影響力」**です。合唱コンクールでも圧巻のまとまりを見せてくれましたが、駅伝大会でも期待通りの姿を目の当たりにしました。
とにかく、**誰も手抜きをしない！**いつも**「やるべきときに　やるべきこと」を実行している！**どの区間の人も全力疾走でした。その姿を後輩の１,２年生に見せてくれていることが本当にうれしいです。
来年度の校内駅伝大会もきっと今回と同じように感動の場面がたくさんあると思います。楽しみです！

★今、1,2年生の「力」も上昇中！

感動の場面は１,２年生にもたくさんありました。競(せ)り負けないようにがんばろうとスピードを上げる姿、自分が走り終わった後、すぐに仲間を応援する姿、走り寄って支える姿がありました。
１,２年生がこんなに爽やかな行動ができるのは、きっと３年生の姿をしっかりと見てきたからだと思います。伊勢宮の伝統として引き継いでいってほしいです。
平均タイムの発表も楽しみです！

【保護者の皆様へ】
お忙しい中、駅伝大会の応援にご来校いただきありがとうございました。約 50 人の皆さんに参観していただくことができました。
温かく見守っていただき、子どもたちも張り切って活躍することができたと思います。

演劇「きみはいくさに征ったけれど」みんなの感想から　その①

青年劇場の皆さんの演劇に寄せて、全校のみんなが「ミニ感想文」を記しました。
その中から、**３年生（まだ一部）の文章を中心に印象に残った感想を紹介**します。
思春期真っただ中のみんなだからこそ、深く感じとれたことがあったのだと思います。
豊かな感性に感心し、未来につながる経験ができたことを嬉しく思いました。

●最初は正直、「劇を見ても眠たいだけ。」と思っていましたが、劇が始まってすぐその考えが消し飛びました。一人なのに体育館に響き渡る声量、素人でも分かる感情が入り込んでいる演技に心ひかれました。僕はふだんから泣くことはしませんが、この劇で５回ほど泣かされました。鳥肌も止まらず、２時間があっという間に過ぎていました。命の大切さを考えさせられる劇だったと思います。

●とにかく、小さな体育館なのに大きな舞台で見ているように迫力があり、とても感動しました。音やシーン、表現の仕方、どれもリアルでありそうな場面ばかりで、登場人物の周りの風景や時間まで簡単に浮かび上がってきました。だからその分、ストーリーの内容に入り込んで今の自分がその話の中にいるようで悲しくなったりうれしくもなったりしました。静かな中で大きな声ではっきり堂々とお芝居をする姿が本当にかっこよかったです。

●劇団の皆さん、すばらしい劇を見せてくださって本当にありがとうございました。時間がとんで変わることによって回想のシーンが次の展開を連想させ、物語が進むにつれ、次々に話が頭と中でつながっていって夢中になりました。おばあさんが亡くなった後の家族の中の話はとても感動しました。

●私はこの演劇を観て、命の大切さや平和であることの尊さを強く実感しました。戦争中は生きたくてもやりたいことがあっても生きることができなかった人がたくさんいたということを知り、生き続けることができる、何でもできる今の私たちは、そのような人たちのためにも一日一日をもっと大事に生きていこうと思いました。

●私は浩三さんが言った「生きる意味は探さないと見つからない。」という言葉が印象に残り、私もこれから生きる意味を探していこうと思いました。浩三さんの力強く明るい生き様、かっこよかったです。私も前を向いて笑顔でいようと思いました。また、最近私は将来何になろう？と考えているので「演者」という仕事もあるんだということを知れてよかったです。

●改めて命の尊さを実感しました。また、いじめがどんなに傷つくことか、死まで追い込むほどの力がある恐ろしいものかということも感じました。その分、寄り添ってくれる人、話を聞いてくれる人がどんなに大切で失ってはいけないものなんだとも思いました。だからこそ、今周りにいる自分のことを気にかけてくれる友達や親友を大切にしていきたいし、自分も人を救えるように誰かに寄り添ってあげられる人になりたいと思います。

●竹内浩三さんの明るい気さくな性格から、戦争について語っているときの場面に変化するとき、表情や声質が繊細に表現されていたり、他の役者さん方も強弱をつけたりしていて感情を読み取りやすかったです。（中略）最後に空襲の場面をもってきて戦争の恐怖を煽るシーンが印象的で自分がそこに立っているような気持ちになり、戦争は絶対にしたくないなと思いました。また、現代社会の問題や悩みが組み合わされていて考え深い作品でした。

●私は命を大切にすることの大事さというより、「命とは何なのか」という命というものの本質的な重要性に気付かされた気がします。私はこれまでは命を大事にするために楽しく生きることが大切だと思っていました。でも今回の劇では「楽しく生きるために命を大事にする」という同じようで同じではない、とても考えさせられるものを感じました。現代を生きている者として、この劇を見られたことをとても嬉しく思います。

●最初は人と話すときに下を向いていた主人公が浩三さんと話をしていくうちに、前を向いて人と話せるようになっていて、主人公の心が変わったことがすぐに分かってとても感動しました。

●竹内さんの一生の過ごし方、人生の考え方がよく分かりました。そばに人がいることが大切であること、一生のうちに後悔するくらいなら、したいことをした方が良いなと思いました。細かいしぐさ、心のこもった劇に感動しました。

●宮斗と母について、親はいつもこんな風に思ってくれているのだなと思いました。だからがんばろうと思います。

●だんだん話が深くなっていくにつれて、竹内さんは「生きることは楽しい」「人生楽しむことが大事」と自分自身の人生を誇らしく生きている人だなあと思いました。人には一つや二つ、人に知られたくないことがあるはず。でも浩三さんが劇の中でも言っていた「見方を変えて見れば…」という言葉が自分自身の一番の材料になるんだなあとも感じました。